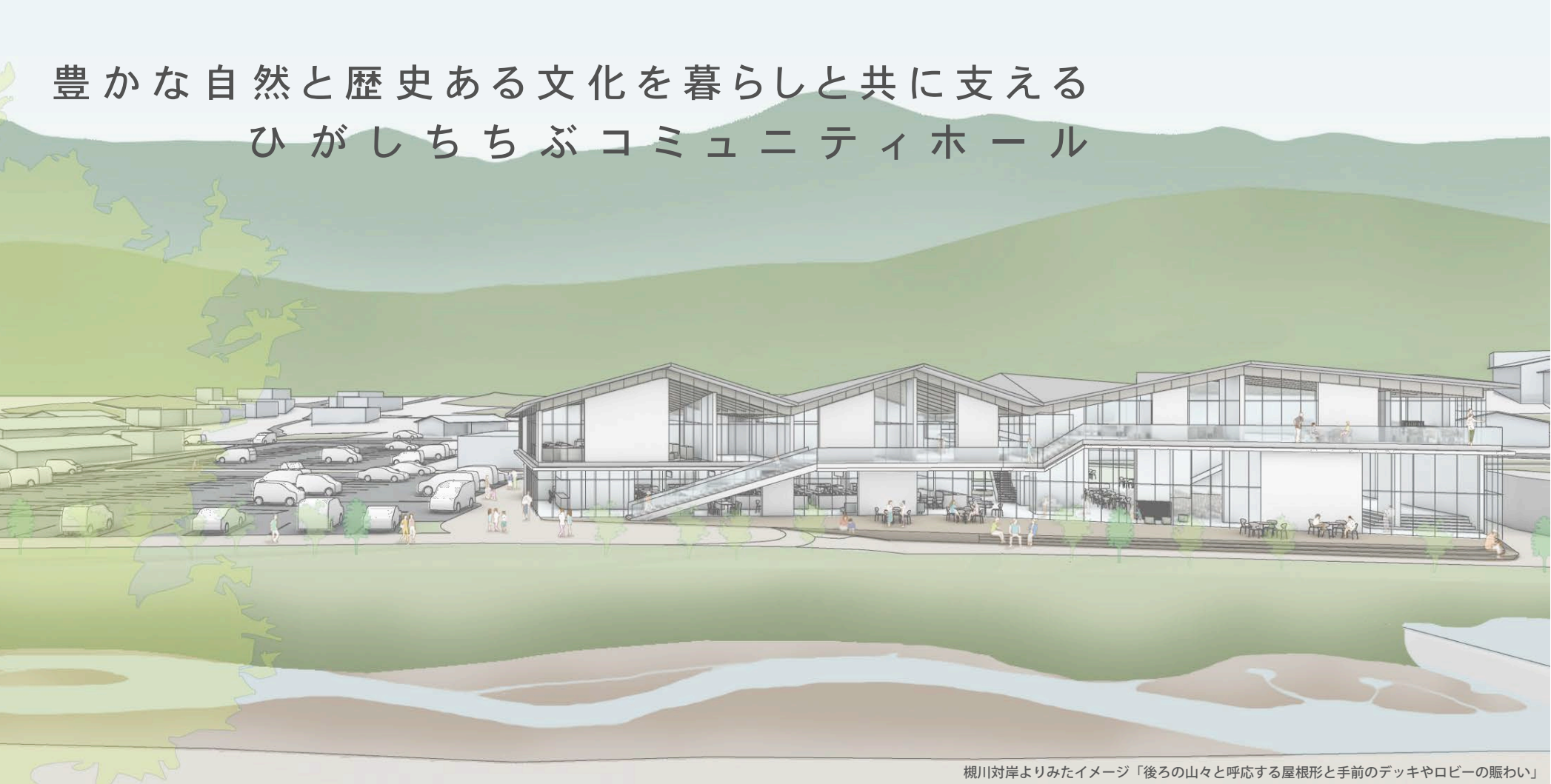




「コンセプトについて」
東秩父村の今と未来に寄り添う新しい拠点

東秩父村の文化をつなぎ・ひらく新しい結び目のかたち

村の中で際立ち、人々が集まるひろばのような東秩父村のサードプレイス

風景 × 暮らし × 産業

東秩父村らしい豊かな自然

村民の生活

東秩父村ならではの
観光、和紙、農業

庁舎 × コミュニティセンター × 商工会
社会福祉協議会

行政の拠点

村民の学び・活動の拠点

村の暮らしを支える拠点

「基本計画／計画方針について」※テーマ1～5
東秩父村に建つ新しい“タウンコミュニティシアターライブラリーホール”としての6つのポイント

1 周辺環境に寄り添う佇まい

2 機能を拡張・活動を増幅
オープンスペース

3 大きな屋根の架かる大きなワンルーム

4 マルチバグド対策を兼ねるランドスケープ

5 風景に溶込むシンボル
おおらかなシルエット

6 共に考え作り展開する
ひがしちちぶスタジオ

隣接する様々な環境条件に対して、これらをより豊かにする建ち方を屋外の居場所づくりと共に計画します

複合機能を緩やかに分かちつなぐ開放的で明るい室内のひろば機能を巻き込みながら屋外のひろばやデッキと一体的につくります。

東西に望む山々や南北に延びる槻川の雄大な風景と呼応する村のこれからを指し示すシンボルとしてのシルエットをつくります。

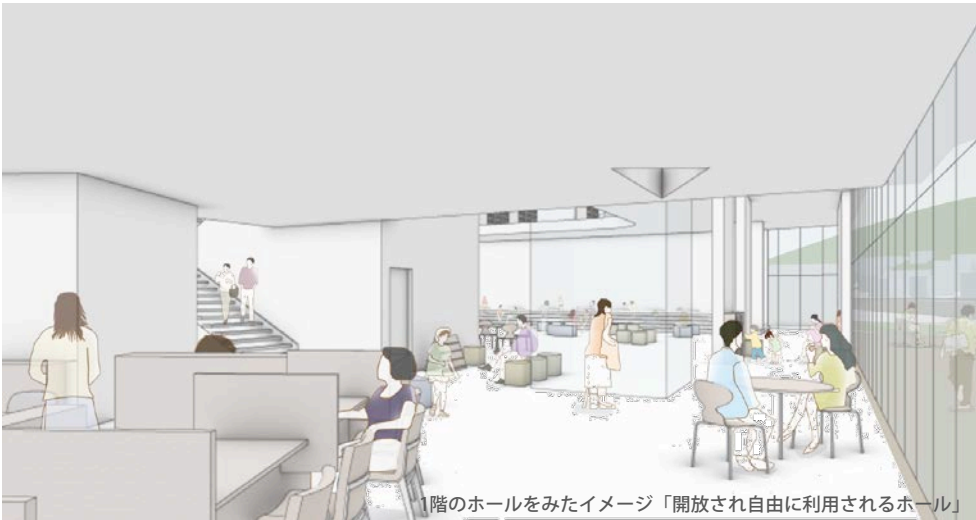
浸水対策による敷地全体の嵩上げや土石流対策でのいなす設えが屋外での過ごし方につながるランドスケープと融合した計画とします。

異なる機能が集まることで生まれる多様な活動やこれによる環境の嗜好を一枚の大きな木屋根で受け止める計画とします。

みんなで考え共に創るWSと社会資本をきっかけとした観光ツーリズムの活性化の2つのスタジオを核とした協働の嗜好を提案します。



南からの鳥瞰イメージ「地域のスケールに寄り添う建ち方」



1階のホールをみたイメージ「開放され自由に利用されるホール」

「基本計画／計画方針について」※テーマ1～5
まちづくりと共に考える暮らしの起点ネットワーク

これからの東秩父村の未来をつくる小さな拠点ネットワーク

みんなが集う役場／コミュニティセンターだからこそ生きる、まちの風景と一体に計画される大きなひろばのようなコミュニティベースを提案します。観光や集いの拠点となっている和紙の里や歴史深い浄蓮寺、Mulife、地域の小さな商業施設との連携含めた東秩父村がこれから続いていくための人と人との繋がりをより生かすことのできる拠点ネットワークの核となる公共の拠り所としての村役場新庁舎を目指します。



小さな拠点ネットワークの起点となる村役場新庁舎

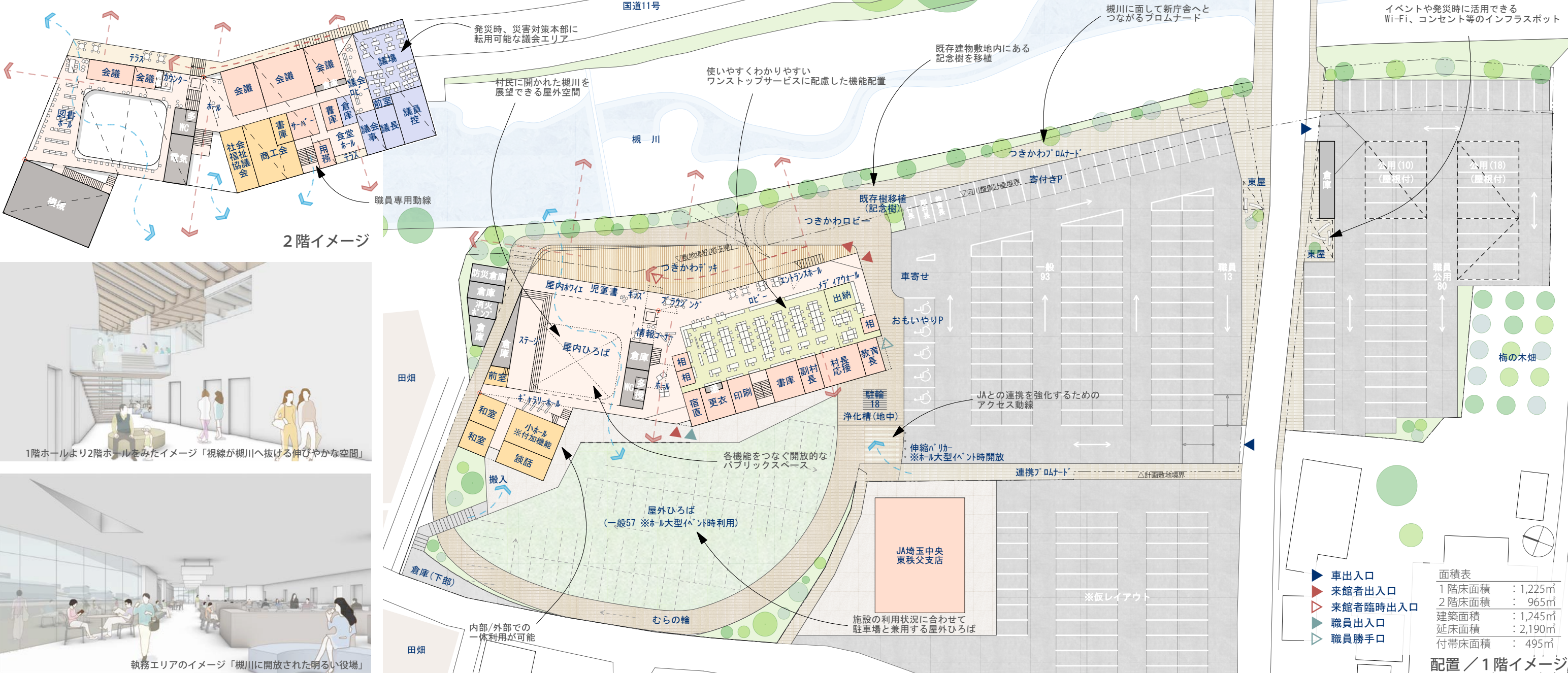
東秩父村が育んできた歴史・文化／自然環境を本計画と共につなぎます

新しい村役場はホールが附属する東秩父村の文化の中心にもなる施設です。村役場としての機能を充実させることとあわせて、東秩父村の歴史と文化を継承し繋いでいく結節点を目指しています。中心拠点として日常的に利用できる広場では、役場を訪れる人々が自然と滞在できるスペースを計画しています。文化の発信、観光拠点の役割も担う、地域を知り/つくる、日常と非日常に馴染む施設です。



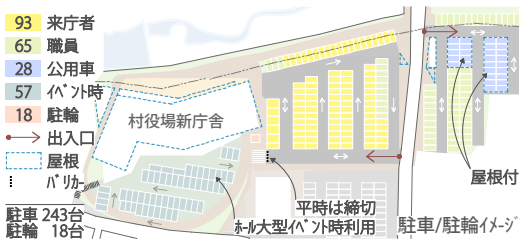
ひがしちちぶ体験の起点となる村役場新庁舎と和紙の里

多様な活動を後押しするわかりやすい構成とつながる公園のようなひろば



日々の暮らしを受け止める、誰もが訪れやすいトータルデザイン

活動に寄り添うひろばと駐車場の設え
必要な際に必要な台数を確保できる駐車場計画とすることで、活動や交流の場として敷地全体を使い倒すことが可能となります。



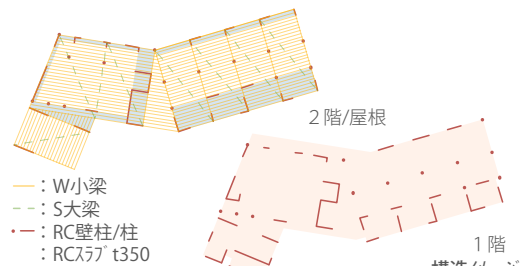
誰にでも使い易いユニバーサルホール

バリアフリーやサインの他言語化へ対応します。各エリアから近接するゾーンへ多目的WCを各階設置します。



機能を統合するフレキシブルな構法

各機能要求や防災対策コストを考慮し主体構造はRC造とします。2階に架かる大きな屋根は大梁：鉄骨造／小梁：県産木材の木造とした構法を提案します。



構造形式	S	RC+W(屋根)	RC(1F)+W(2F)
コスト	△	◎	○
工期	△	○	○
大空間	○	○	△
防災	△	◎	○
フレキシビリティ	○	○	△

東秩父村の新たな付加価値を生み出す“2つのスタジオ”

地域・世代・立場を限定しない“想いをカタチにする”WSスタジオ
村民の皆様との接点を積極的に設けます。今後100年使われる公の場を「みんなで考え共に創る」を実行します。地域ごとの役場等に対する想いを吸上げる出張WSや意見交換会、複合施設検討のためのワールドカフェ等のWS手法を活用し共有を図ります。また災害への備えを醸成する減災WSの開催も行います。



村役場新庁舎を軸とした“ひがしちちぶツーリズム”の活性化スタジオ

今ある村の魅力を深堀することでまだ気付いていない社会資本を見出し、着目し分析／促進させる提案を本計画と共に行います。また管理技術者の主催する大学研究室の学生の主体的な参画も検討します。豊かな自然環境や景観を生かしたひがしちちぶ唯一の体験型観光ツーリズムの活性化に寄与する提案です。



親しみやすく気軽に立寄りたくなる多様な居場所をつくる

コミュニティホールでつながる機能的で使いやすい4つのホール、商工会、社協

使いやすくわかりやすい機能配置を提案します。シンプルな構成エリアを雁行させながら結ぶことで余白の空間（ホール）をつくり開放的なパブリックスペース（コミュニティホール）を生み出しています。

0. コミュニティホール

4つのホール、商工会、社協を結び共用エリアです。兼用やオープンな利用が可能な各ホールの用途が表出する、明るく開放的なエリアです。角度を持つバッファーズンにて各機能(ホール)を緩やかにつなぎます。

1. タンホール『役場』

人数編成に対応
大型テーブル
わかりやすい
各課案内サイン
地域産材使用
カウンター
車いすやお年寄り
に合わせた記載台

窓ロカウター
視認
入口
出納
会議室
倉庫
職員控
会議
受付窓口
吹抜
ガラス
WC
BDS設置

2. タンホール『議会』

2階南側駐車場に面した位置にまとめて配置します。1階の執務エリアからも裏動線にて容易にアクセス可能な計画です。

3. シアターホール『屋内ひろば』

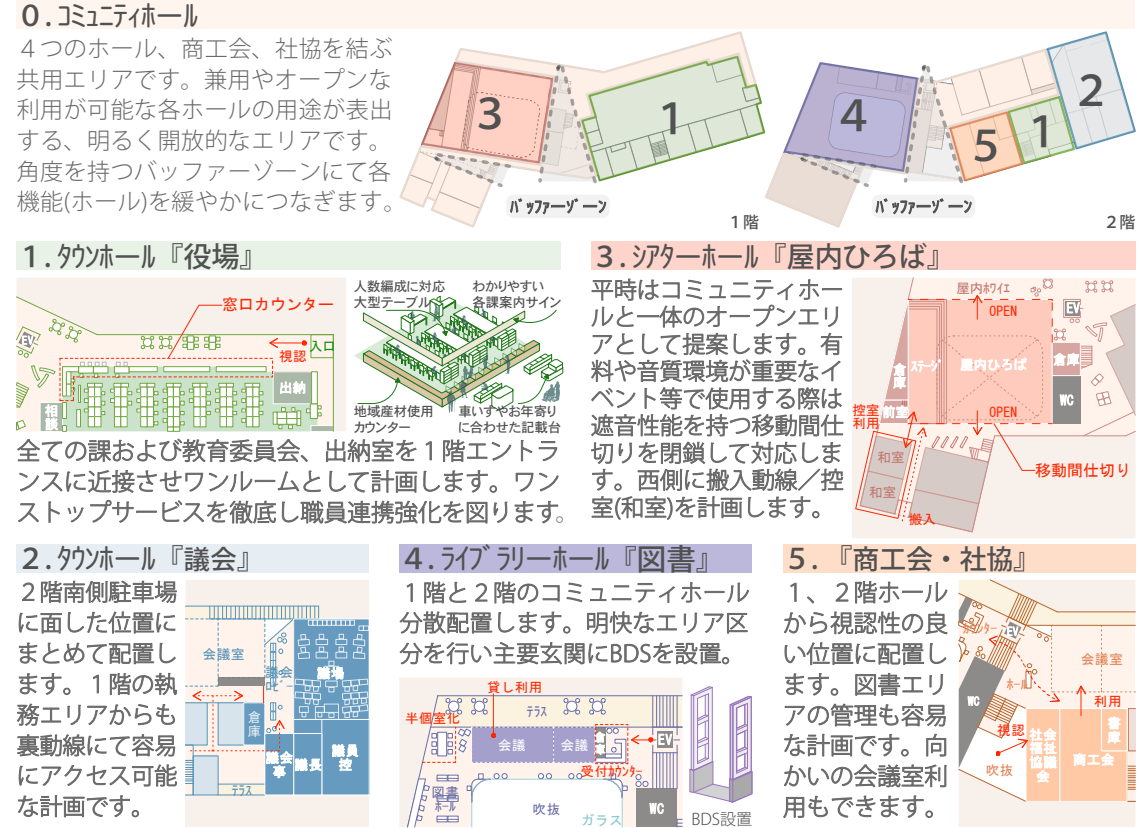
平時はコミュニティホールと一体のオープンエリアとして提案します。有料や音質環境が重要なイベント等で使用する際は遮音性能を持つ移動間仕切りを閉鎖して対応します。西側に搬入動線/控室(和室)を計画します。

4. ライブラリーホール『図書』

1階と2階のコミュニティホール分散配置します。明快なエリア区分を行い主要玄関にBDSを設置。

5. 『商工会・社協』

1、2階ホールから視認性の良い位置に配置します。図書エリアの管理も容易な計画です。向かいの会議室利用もできます。



東秩父村ならではの温もりある空間づくり

ひがしちちぶを体現する空間として、**県産木材を積極的に利用**し、木造屋根へも採用します。**細川和紙を使った手摺壁や障子戸**も提案します。

窓ロカウター/間仕切り

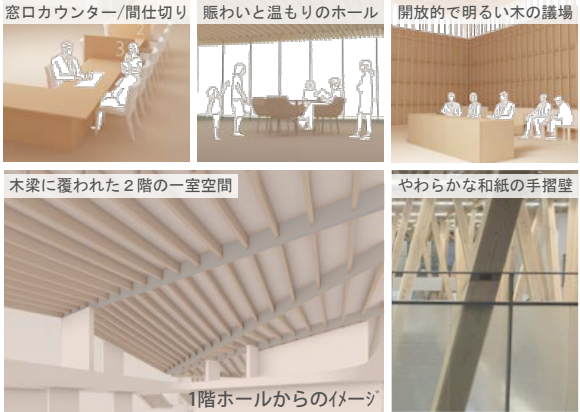
賑わいと温もりのホール

開放的で明るい木の議場

木梁に覆われた2階の一堂空間

やわらかな和紙の手摺壁

1階ホールからのイメージ



既存インフラを活かす的確なフェーズ計画

既存役場を使いながらの工事のため**安全管理が容易で無理・無駄のないフェーズ計画**とします。仮囲いの可変のない仮設計画も提案します。

第1: 開発工事
仮囲い

第2: 建設/完成/引越
仮囲い

第3: 既存解体
仮囲い

第4: 事業完了



様々な比較検討による最適な計画

近隣に田畑が多いことや防災対策、駐車場台数確保等を踏まえて対象敷地条件や環境・機能要求を精査の上、徹底した比較検討を行います。

階数

1階 2階 3階

・駐車台数確保が困難
・機能間の距離が長い
・土石流対応が困難

・機能間連携が最適
・段階的災害対応可能
・周辺環境関係が最適

・機能間連携が困難
・3階炎対本部は有効
・周辺環境関係が希薄

配置

配置案

利便性	×	○	△
快適性	×	○	△
災害対策	△	○	×
近隣配慮	×	○	×

平面形状

横川 田畑 JA側 広場

横川側の空間狭い
田畑への影響懸念
広場狭い

横川側の空間広い
田畑への影響緩和
広場広い

屋根形状

等時間日影範囲(測定高: 1FL±0)
2時間: 4時間:

田畑 田畑 田畑

・影: 大/長時間
・2階全体が高い屋根
・施設インパクト大

・影: 小/比較的短時間
・2階機能合て最適化
・風景に沿ったカタチ

・影: 中/比較的長時間
・2階全体が同屋根高
・方向性が強い



つきかわデッキのイメージ「東側の落ち着いた屋外の空間」



議場のイメージ「南東エリアを見通すことのできる開かれた議会」

横川に沿った立地や周辺環境を最大限活かしたつくり過ぎないランドスケープ計画

地域に回遊性を生む安全なひろばと周辺連携を促すプロムナードと駐車場

東秩父村の豊かな風景に重ね合わせたおおらかな屋外空間を提案します。敷地北側を歩者ゾーン、南側を車ゾーンとし**歩者分離の安全な計画**です。南側からはプロムナードにてつなぎます。横川沿いのデッキは屋内との一体利用が可能な親水空間です。更に西側屋外ひろばは緩やかな起伏を持つどこからでもアクセスできる公園となります。地域に対して裏をつくらない屋外の設えです。

横川

施設利用別駐車場
可能エリア境界

つきかわプロムナード
国道から最短でアクセス可能な
親水性の高いプロムナード

つきかわロビー
メインエントランス周辺はハード舗装
で様々なバリエーションに対応が可能

屋外ひろば(新庁舎)
村民の活動空間として
日常的に利用可能

屋外ひろば
村民の活動空間として
日常的に利用可能

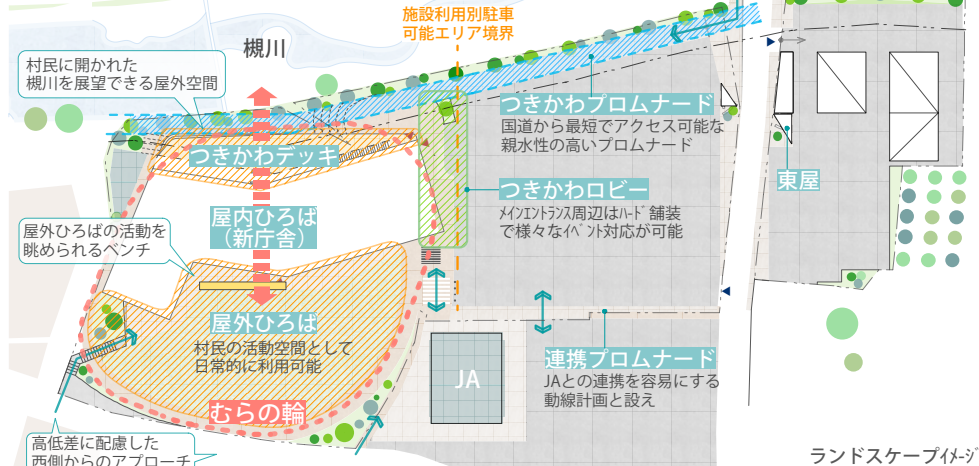
むらの輪

JA

連携プロムナード
JAとの連携を容易にする
動線計画と設え

東屋

ランドスケープイメージ



むらの輪 (円いみちのようなひろば)

居場所をつなぐ円いひろばは屋内/外のひろば・デッキ・地域を巻込む活動のシンボル

屋外ひろばの有効活用

車輦対応の芝舗装とした西側広場はホール大型イベント時の臨時駐車場となります。

大型イベント時駐車場利用イメージ
57台確保

芝生仕様イメージ

混合芝
混合種/イタリイタリ
(150-200mm)

仕上層

路盤(250mm)

排水層
(φ100有孔管)



連絡プロムナード

JAとの連携強化を図り、このエリアを一体的に利用することのできる計画とします。

つきかわプロムナード・ロビー・デッキ

横川に面するエリアを南から敷地奥へとつづく様々な親水空間として設えます。

つきかわプロムナードのイメージ「寄付きPから直接7ヶ所」



マルチハザードへ対応する安心・安全な防災/避難拠点

平常時の活動の場が災害時の多様な要求に対応できる合理的な全体計画

基本的には災害時に役場機能や指揮管理の確保を重視した計画とします。また**緊急避難に際する**1階の備蓄倉庫や各階の多目的WC、屋外階段等を設けます。水害/土砂災害を視野に減衰機能として**水**:敷地の盛土や出入口への止水板設置、**公用車**エリアの盛土/防災倉庫、**土**:山側からの緩衝帯や敷地境界の手摺擁壁、西側開口部の配慮(腰窓等)を行います。日常/非常を横断した計画です。

防災関連備品倉庫

災害時執務エリア
(通常時: 会議室)

ロビー: 災害時情報公開
各避難場所へ村民を誘導

災害時でも
公用車の円滑な
出入りが可能

公用車用
駐車場

東屋: 災害時でも通信
可能なWi-Fiスポット

ボランティア待機スペース

視認性確保

緊急車両エリア
(通常時: 来庁者用駐車場)

移動間仕切りによる
一体利用

一時避難ひろば
※地震時の場合
災害時の炊き出し
スペース等に活用

災害対策本部
(通常時: 議場)

一体利用可能

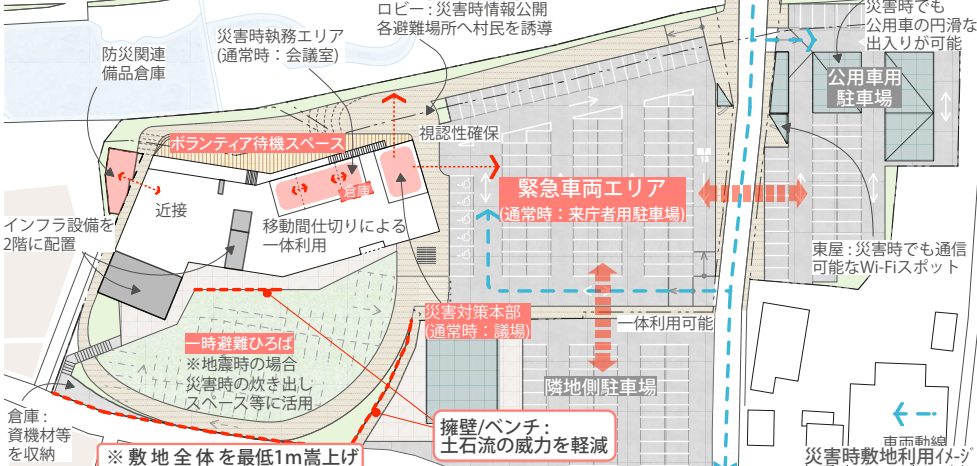
隣地側駐車場

擁壁/ベンチ:
土石流の威力を軽減

※敷地全体を最低1m嵩上げ

倉庫:
資機材等を
収納

災害時敷地利用イメージ



代替防災拠点を普段から使いこなす

1階部分が使用できない際2階を代替防災拠点とします。議場などを活用した、切れ目のない危機管理対応を行います。

班
1階
一次避難所
ホールを視認

班
2階
災害対策本部階

班
3階
災害対策本部

班
4階
災害対策本部

班
5階
災害対策本部

班
6階
災害対策本部

班
7階
災害対策本部

班
8階
災害対策本部

班
9階
災害対策本部

班
10階
災害対策本部

班
11階
災害対策本部

班
12階
災害対策本部

班
13階
災害対策本部

班
14階
災害対策本部

班
15階
災害対策本部

班
16階
災害対策本部

班
17階
災害対策本部

班
18階
災害対策本部

班
19階
災害対策本部

班
20階
災害対策本部

班
21階
災害対策本部

班
22階
災害対策本部

班
23階
災害対策本部

班
24階
災害対策本部

班
25階
災害対策本部

班
26階
災害対策本部

班
27階
災害対策本部

班
28階
災害対策本部

班
29階
災害対策本部

班
30階
災害対策本部

班
31階
災害対策本部

班
32階
災害対策本部

班
33階
災害対策本部

班
34階
災害対策本部

班
35階
災害対策本部

班
36階
災害対策本部

班
37階
災害対策本部

班
38階
災害対策本部

班
39階
災害対策本部

班
40階
災害対策本部

班
41階
災害対策本部

班
42階
災害対策本部

班
43階
災害対策本部

班
44階
災害対策本部

班
45階
災害対策本部

班
46階
災害対策本部

班
47階
災害対策本部

班
48階
災害対策本部

班
49階
災害対策本部

班
50階
災害対策本部

班
51階
災害対策本部

班
52階
災害対策本部

班
53階
災害対策本部

班
54階
災害対策本部

班
55階
災害対策本部

班
56階
災害対策本部

班
57階
災害対策本部

班
58階
災害対策本部

班
59階
災害対策本部

班
60階
災害対策本部

班
61階
災害対策本部

班
62階
災害対策本部

班
63階
災害対策本部

班
64階
災害対策本部

班
65階
災害対策本部

班
66階
災害対策本部

班
67階
災害対策本部

班
68階
災害対策本部

班
69階
災害対策本部

班
70階
災害対策本部

班
71階
災害対策本部

班
72階
災害対策本部

班
73階
災害対策本部

班
74階
災害対策本部

班
75階
災害対策本部

班
76階
災害対策本部

班
77階
災害対策本部

班
78階
災害対策本部

班
79階
災害対策本部

班
80階
災害対策本部

班
81階
災害対策本部

班
82階
災害対策本部

班
83階
災害対策本部

班
84階
災害対策本部

班
85階
災害対策本部

班
86階
災害対策本部

班
87階
災害対策本部

班
88階
災害対策本部

班
89階
災害対策本部

班
90階
災害対策本部

班
91階
災害対策本部

班
92階
災害対策本部

班
93階
災害対策本部

班
94階
災害対策本部

班
95階
災害対策本部

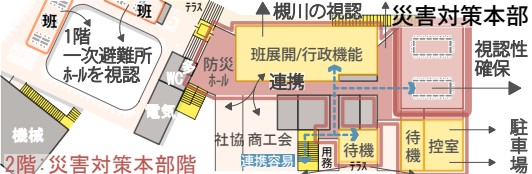
班
96階
災害対策本部

班
97階
災害対策本部

班
98階
災害対策本部

班
99階
災害対策本部

班
100階
災害対策本部



余白を使った備蓄倉庫と防災への備え

一次避難が想定されるホールステージ下/床レベル差を屋内備蓄倉庫として活用します。床は避難時の区画見える化を行います。

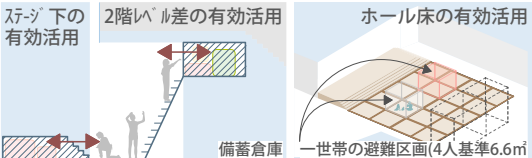
ステージ下の有効活用

2階バリエーションの有効活用

ホール床の有効活用

備蓄倉庫

一世帯の避難区画(4人基準6.6㎡)



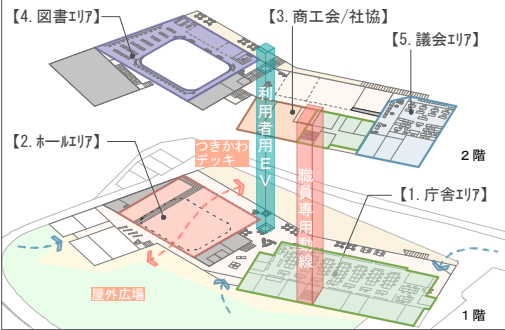
災害時のBCP対応の考え方

区分	経過	初期期	展開期	安定期	復旧期
項目	直後	～約3日	～約7日	～約14日	約2W～3か月
電力	非常用発電設備(3日)/UPS+太陽光発電	電力復旧/電源車接続対応			
電気	使用継続(非常用発電設備・UPS)	電力復旧/電源車接続対応			
通信	使用継続(非常用発電設備)				
情報	非常用発電設備(重要室のみ継続運転)+自然換気				
設備	上下水	受水槽(上水)雨水貯留槽(雑水、下水、排水)	給水車	復旧	
他	備蓄	継続利用(随時補充)			

テーマ3「効率性を重視し機能的で高度情報化に対応した庁舎について」
複合化メリットの最大化を図るためのエリアゾーニングと機能配置

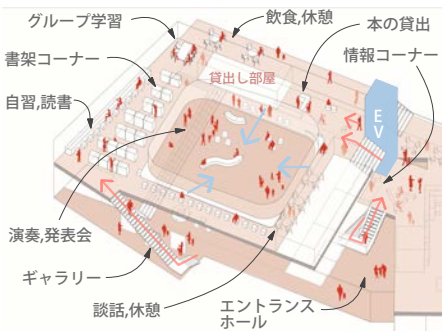
2層に渡る機能連携の容易な構成

前述のバッファゾーンを介した明快で機能完結が容易な平面構成に対して、各エリアを立体的に組み合わせ、大小の吹抜や動線をつなぐことにより、階の違いや奥行きを持ちつつも密接な連携が容易な構成を実現しています。



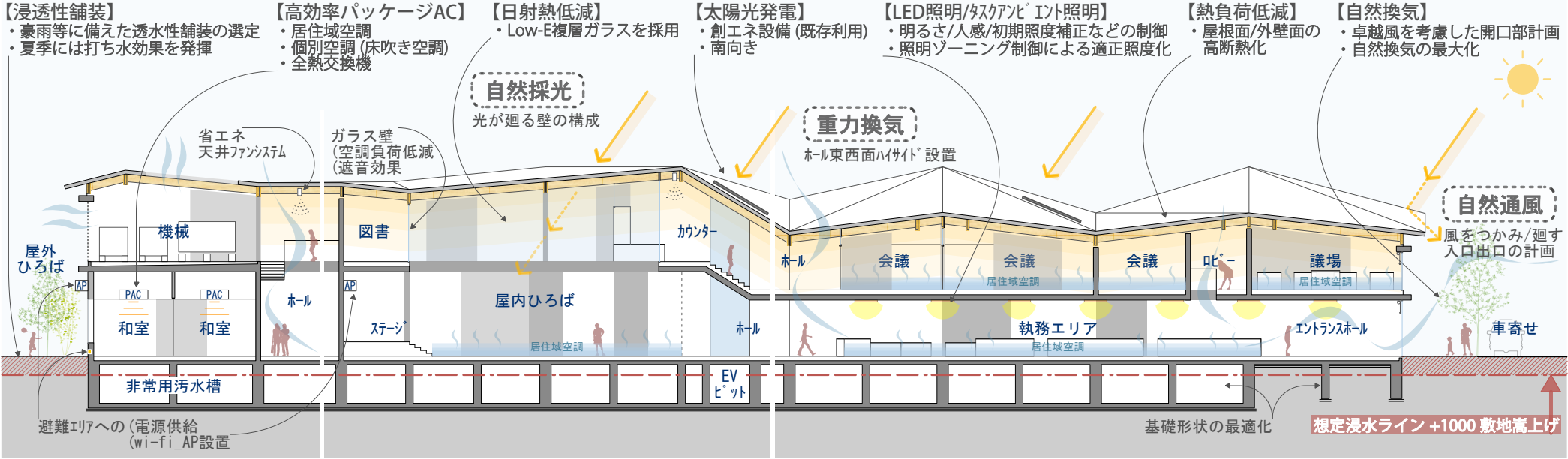
テーマ3「効率性を重視し機能的で高度情報化に対応した庁舎について」
いろいろな使い方を後押しする様々な準備と空間のカタチ

多様な居場所がつくるコミュニティホール
情報コーナーや待合ロビー、ブラウジングやギャラリー、キッズスペースなどの諸室を必要としない機能を混在させることで、使い方を限定しないコミュニティベースをつくります。また、新たな活動のきっかけの場となり、面積削減も図ります。



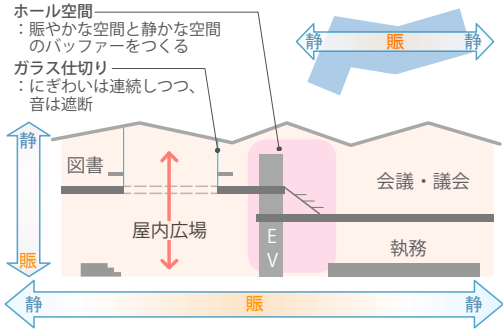
テーマ4「省エネルギー対策など環境に配慮した庁舎について」
東秩父村の気候や風土に寄り添い・活かす地域ならではの環境にやさしいエコタウンホール

ランニングコストに負担を掛けない、自然エネルギーの積極的な利活用による明るく快適な居場所



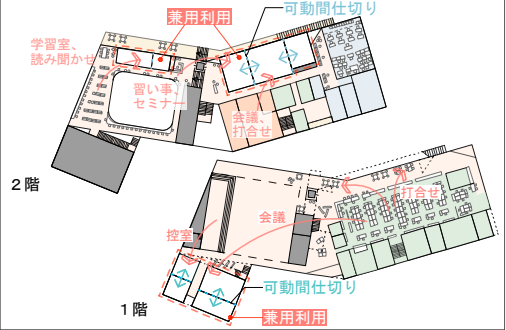
音環境ゾーニングによる選択肢を持つエリア

音環境のエリア分けにて利便性や使い勝手の向上、利用促進を図ります。利用者一人一人が気分や使用用途に合わせて自由に場所を選択できる、複合施設ならではの多様な環境形成に寄与する計画とします。



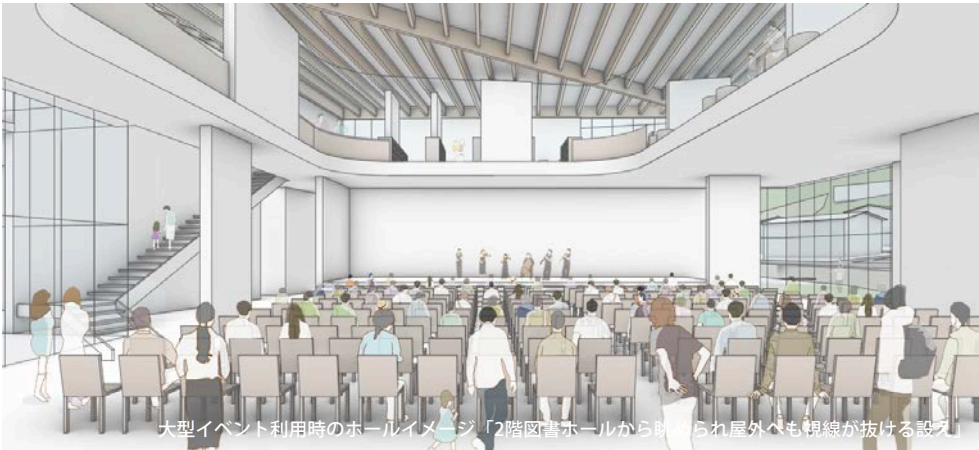
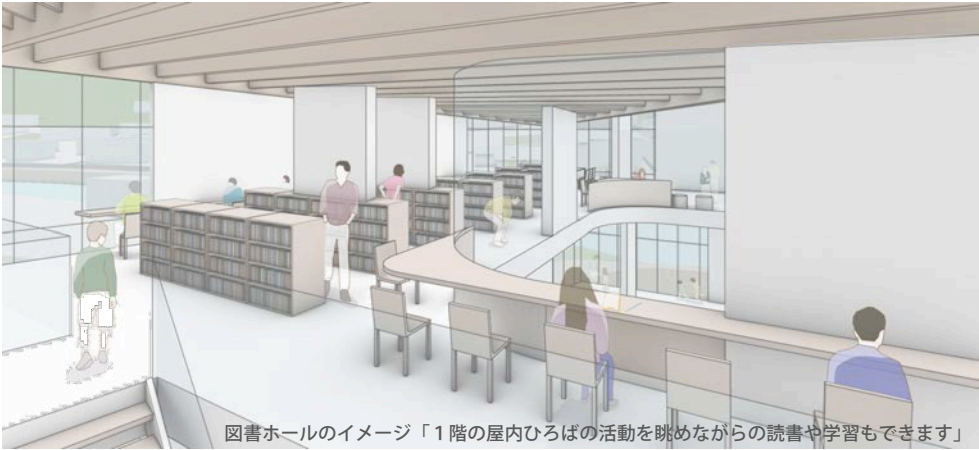
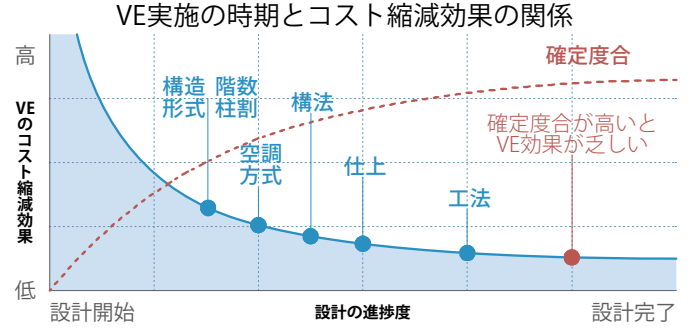
多様な兼用を実現する機能配置と設え

兼用が可能な諸室やエリアは、利便性向上のため建物全体にちりばめています。規模や設え、プライバシーの度合い等に合せた選択も可能です。更には会議室等は移動間仕切りの開放により規模を拡張することができる計画ともししています。



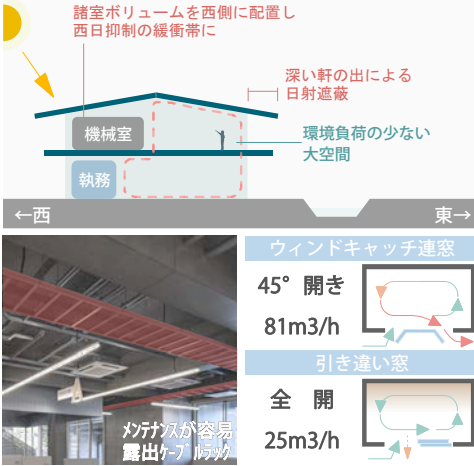
テーマ4「省エネルギー対策など環境に配慮した庁舎について」
徹底したコストコントロール

後工程に積み残しを行わないBIMを活用したVE計画
業務開始時に各期間ごとに確定する必要のある事項と課題の洗い出し／与条件整を行います。またVEに有効なタイミングを把握し、コスト削減効果の大きい基本設計業務内に検討を行い、後工程の調整余白を残した計画とします。また、独自レビューによる客観的視点での検討や全社の支援による品質／コスト管理など多様な意見を検証／反映できる体制をつくります。



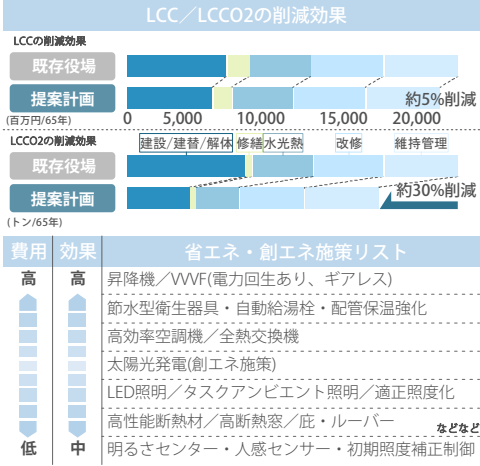
的確なパッシブデザインの採用

設備に頼らない計画として、西日侵入の防止やウィンドキャッチ連窓による風をつかまえる計画、メンテナンスを容易とする設備露出などを行います。



省エネを育てる環境型施設

外皮の高断熱化や日射遮蔽底、高効率設備など費用対効果を考慮し施策選択を行いLCC縮減を図ります。創エネ設備の導入や見える化も検討します。



イ 業務の実施方針

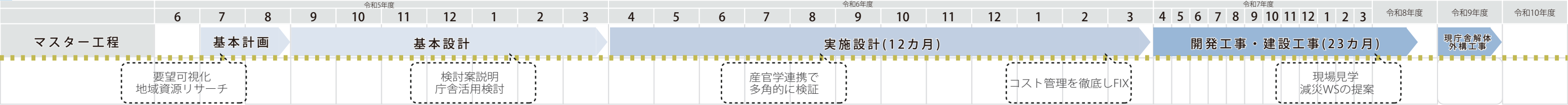
設計チームの特徴

複合的に機能が交わる施設の実現に向けた、多様な状況に寄り添うチーム体制

村役場庁舎とホール中核施設をつくる上で、それぞれの思いを汲み取ることが可能な体制をつくり、多様な人が関わる余白をつくる**ことが大切である**と考えます。本計画では、まちに寄り添う地域性や変動する情勢に対応する経済性、市民の安全を守り生活に寄り添う防災性を併せ持った計画を、**多様な状況に寄り添うチーム体制によって実現**します。設計チームには地方自治体での設計実績を持つ者が多く所属し、**計画に関わる数多くの職員・運営の方とやりとりの経験**からスムーズに計画を進めます。それぞれの分野における経験豊富なサポートチームの体制にて庁舎計画業務を遂行します。

設計工程計画を踏まえた取り組み体制

村の変化、村民の声への柔軟な対応を可能にする、実績を活かした確実な業務体制と工程計画



★＝過去の協働設計業務実績

産学官の連携による多様な検討

☆☆☆

国立大学の研究室を設計チームに加え、**産学官の連携による検討体制**をつくりま
す。建築分野に留まらず、土木的な分野
からの知見を活かすなど、**多様な側面か
らの検討を実現**してまいります。



日常と非日常をつなぐ防災・減災WS

☆☆☆

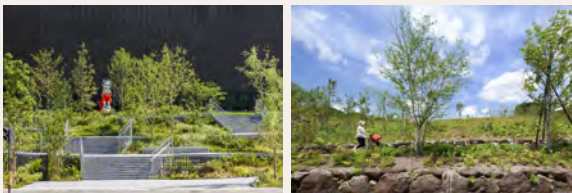
過去実績を活かし、施設の計画段階から
皆さまと共に、**日常時の多様な活動を支
える広場WS(平常時)**と、避難や災害後の
**生活復旧支援の拠点としての在り方を考
える減災WS(非常時)**を計画します。



親しみやすさをつくるランドスケープ

☆☆

山に囲まれた風景に呼応する、**東秩父の
気候風土を活かしたおおらかなランドス
ケープ**を計画します。植生を活かした広
場をつくり村民のみなさまと共に考え**日
頃から親しめる外構計画**とします。



東秩父村民

村のみなさまと共につくる

村内外の多世代の方々と共につくる庁舎の計画
耳を傾け声を聞き、意見を活かした計画とします



東秩父村

東秩父村の未来をつくる

相談のしやすい体制づくり・窓口を一元化し、
より深く様々な検討が進められるようにします。



地域施設・資源

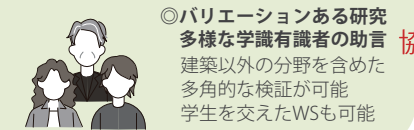
東秩父村の価値を活かす

地域施設や地域資源を活かした計画にします。
東秩父村が元々持つ価値の最大化に伴走します。



国立大学 意匠計画研究室

建築以外の豊富な知見

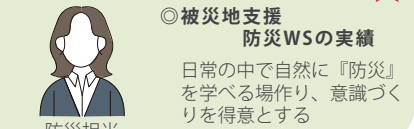


協働

意匠担当

減災アドバイザー/博士(工学)

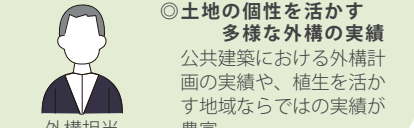
防災計画の専門家



協働

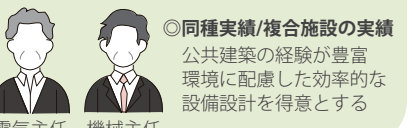
ランドスケープ計画

多様な地域風土での実績



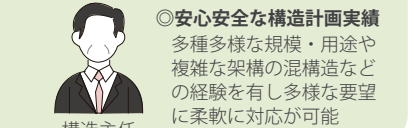
設備担当主任技術者

様々な規模・環境建築の知見



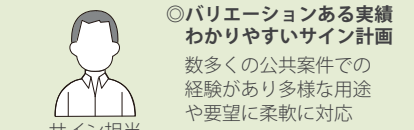
構造担当主任技術者

様々な構造・規模の実績



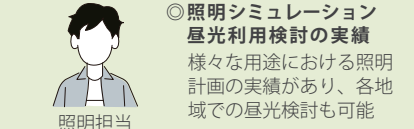
サインデザイン担当

様々な用途の実績



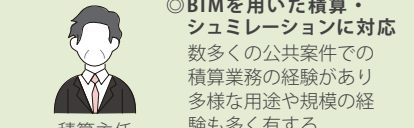
照明デザイン担当

様々な用途の実績



積算・コストコントロール

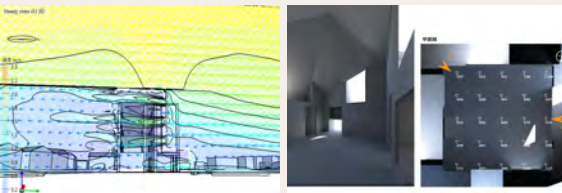
豊富な積算実績



東秩父の環境エネルギーを活かす庁舎

☆☆☆

居心地がよく快適でありながら、**運用エ
ネルギーを抑えた計画を実現**します。こ
れまでの省エネや創エネ実績を活かし、
**立地条件を活かした環境配慮型の庁舎計
画**を目指します。



場所の価値を活かす役場庁舎をつくる

☆☆☆

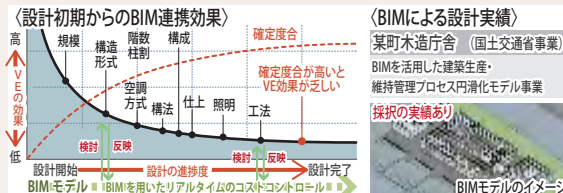
地方自治体における**役場庁舎の実績が多
くあるチーム体制**で業務を遂行します。
村民の皆さまに近い体制を構築し、**声を
聞き、多様な価値観を受け止め、東秩父
ならではの役場庁舎実現**を目指します。



変化する情勢に対応するコスト管理

☆☆

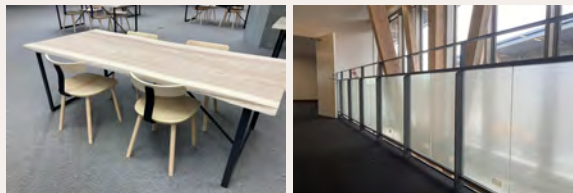
先の見えない社会情勢に対して、事業費
を少しでも抑えることを目指し、**基本設
計段階から徹底したコスト調整**を行いま
す。設計時にはBIMも活用し、タイムラ
グのない**堅実なコスト管理**を行います。



地域連携による地場産材・特産品活用

☆☆

地域連携や相互理解の土壌づくりを設計
初期から意識して業務に取り組みます。
初期段階から連携の流れを構築し、**地場
産材や特産品を活用しやすい計画**とし、
愛着がうまれる施設計画を実現します。



設計工程計画

